

# ドクター メモ

知っていますか

## 甲状腺の働きや病気

甲状腺は、のどぼとけの下にある大きさ4cm、重さ15g程度の蝶の形をした臓器で、生きていくために不可

欠な甲状腺ホルモンを分泌しています。甲状腺ホルモンは、原発事故の放射能汚染で話題となったヨードを原料として合成され、体の新陳代謝を盛んにする作用を持っています。甲状腺の病気は比較的多く、わが国では成人の10%程度に何らかの甲状腺の異常が認められます。甲状腺の主な病気にバセドウ病、慢性甲状腺炎(橋本病)、甲状腺腫瘍があります。

甲状腺機能が亢進している(高まっている)病気はバセドウ病と言われ、体の中に甲状腺を刺激する物質(自己抗体)ができることよって甲状腺が刺激され、腫れて大きくなりホルモンが必要以上に分泌されます。このため、動悸や体重減少、

手の震え、暑がり、汗の増加、体のたるさなどの甲状腺ホルモン過剰症状が出てきます。

逆に、甲状腺機能が低下してくるのは、慢性甲状腺炎(橋本病)と言われ、甲状腺に慢性の炎症が起きて硬く腫れてきます。だんだんと甲状腺の働きが悪くなり甲状腺ホルモンが足りなくなり、徐脈(脈が遅くなる)や体重増加、寒がり、便秘、むくみ、皮膚のかさつき、集中力の低下、脱毛などの甲状腺ホルモン不足症状が出てきます。

甲状腺腫瘍は、しこり(結節)ができる病気です。悪性の腫瘍もありますが、ほかの癌に比べて進行が遅いのです。首の前部の腫れに気づかれた方は、一度検査を受けてください。

吹田市医師会 朝川 秀樹